

第14回全国学校飼育動物研究大会

パネル展示発表 4題

● 科学的な思考力の芽生えを育む動物飼育の実践

山形大学附属幼稚園 園長 岡村 廣

本実践は、「科学的な思考力の芽生えを育む動物飼育の実践」をテーマに、「科学的な思考力の芽生え」を「自然に親しみ、驚き・感動する姿」「生き物に親しみ、いのちを大切に作る姿」「仲間と協力し、遊びを創造する姿」の三つの姿として捉え、その育成を目指して行ったものである。本発表では、特に「子どもの驚き・発見、そして主体的な遊びを生むための環境構成」の視点から、「動物飼育（特に、うさぎ）」を行い、「環境構成のキーワード」として、「身近に感じる、心の安定を得る」等や「触りたくなる飼育環境」の構成が、科学的な思考力に芽生えを育むのに重要であったことが分かったことを報告したい。

● 中学校理科における「マイウニ飼育」の実践

木更津市立木更津第一中学校 小川 博久

中学生を対象に動物飼育の体験を調査すると「責任をもって動物飼育した」「動物の誕生を見たことがある」「動物を継続的に飼育・観察したことがある」という生徒は少ない。

そこで、バフンウニ *Hemicentrotus pulcherrimus* について受精からスタートしたウニを一人一人の生徒が幼生から稚ウニまで個別飼育（マイウニ飼育）する学習を進めてきた。

開発した学習プログラムにより生徒の意識が、どのように変容するか意識調査を行ったので報告する。なお本研究は、科学研究費補助金（奨励研究）課題番号 22924001 および SPP AG103190・AG110494 により実施した。

● 各地の支援体制について

社団法人日本獣医師会 学校動物飼育支援対策委員会

社団法人日本獣医師会に所属する全国47都道府県と政令都市にある計55の各地の獣医師会は、それぞれの事情に応じて地域の教育施設での動物飼育を支援している。獣医師は、地域で子どもを育てている親でもある専門家として学校等の相談相手となっている。獣医師会の活動内容には、飼育相談、あるいは動物の健康診断、または子どもへのふれあいの指導などが見られており、自治体行政の支援のある地域や無い地域など、様々だが、そのような各地の事情、活動内容などについての調査結果並びに、日本獣医師会としての対応ガイドライン概要を報告する。

● 心を成長させる学校飼育活動

～もの言わぬ生き物が語りかけるメッセージを心で受け止める子どもたちを見つめて～

栃木県佐野市立栃本小学校 石島敦子

平成 23 年 5 月、楽しみにしていた子ウサギが本校に来ました。さっそく飼育委員を中心に、全員（児童も教職員も）で名前を決めました。決定した名前「ハッピー」。なぜかハッピーは上手に動けません。子どもたちは学校獣医師の先生に診ていただきました。結果、ハッピーは後ろ足に障害があることが分かりました。大きくなるまで校内で飼育する事を決めた子どもたち。日々、身近で接する事で大きく成長する子どもたちの心。子どもたちに、どんな成長があったのかお伝えします。